便り

大島　健吾

［登場人物］
翁（桃太郎のおじいさん）
嫗（桃太郎のおばあさん）
女（隣の家の娘）
男（向かいの家の男）

翁　　心配じゃのう、おばあさん
嫗　　桃太郎が心配じゃのう、おじいさん
翁　　鬼退治に行くといって飛び出したっきり、便りもよこさず
嫗　　無事かのう。
翁　　心配じゃのう
女　　（かけこんできて）おじいさん、おばあさん！
翁　　おう、おつるか。
女　　桃太郎殿から便りが！
翁　　おおお、頼りが！
嫗　　すまんが、読んでくれまいか。わしらは、目が悪くてのう。
女　　では。
　　「翁、嫗、息災なりや。予は、道中険しけれども、無事に候。」
翁　　おおお、そうか。
嫗　　よかったのう。
女　　「先頃、はじめて、予に侍りし家来出来つ。」
嫗　　家来！　それは心強いのう。
翁　　これで安心じゃ。
女　　「家来は犬也。」
全員　　（顔を見合わせる）
翁　　・・・おお？　ん・・・？
嫗　　おう・・・？
　　お前、家来が犬ということはあるまい。見間違いではないのか。
女　　（戸惑い、手紙をもう一度みて、顔をあげ、きっぱりと）「犬也。」
嫗　　あああああ！！！！！
翁　　ばあさん！？
嫗　　なぜじゃ！！！　どのような経緯でそうなった！
女　　「犬、歌いて云うよう」

翁　　歌いて？
嫗　　ふざけておる！
女　　「桃太郎殿、桃太郎殿、御腰に付けしキビのダンゴ、一つ我に与えよ」
媼　　上から目線じゃと！
翁　　まさか桃太郎は与えたのか？
女　　「予、与えし」
媼　　あああああああ！！！！！
翁　　わし等は育て方を間違ってしまったんじゃろうか
嫗　　動物が家来じゃと？　動物の森か！　それでは鬼に殺されてしまうわ・・・あああ・・・
翁　　（女に）また、便りがあれば教えてくれんか。
女　　はい。

（場転曲。女ははける。暗転。嫗は暗転中に下はけへ。明転。）

翁　　うーむ、桃太郎はどこで何をしているのだろう
女　　（かけこんできて）翁、嫗！
翁　　おう、おつるか
女　　・・・あな、おばあさんはいずこに？
翁　　あの便り以来、病に臥せっておる。
女　　なんたること・・・あの、桃太郎殿から新たな便りが・・・。
翁　　もし仮に、桃太郎の次の家来が、犬とは別の生き物であったなら、おばあさんは・・・。
　　読んでくれ
女　　気になります。
嫗　　ショック死する。
女　　ショック死ですと！
翁　　とにかく読んでくれ。
女　　では・・・「予は無事なり。ところで、先頃、世に新たなる家来出来つ。」

（嫗が、下はけからよろよろと出てきて、聞いている）

女　　「新たなる家来は、猿とキジなり。団子終に無くなりにけり。新たに送れ。」
翁　　これは・・・おばあさんには見せられぬ
　　（振り向く）・・・あ。
嫗　　（何も言わず倒れる）
女　　ショック死するーーー！　！！！
嫗　　動物３匹が家来じゃと！　動物の森か！
女　　おばあさん、二度言わなくても
嫗　　何が目的じゃ！
翁　　鬼退治じゃ！　決まっておろう！
嫗　　鬼なぞ倒せるものか！　畜生じゃぞ！

桃太郎が・・・死んで・・・しまうわ・・・

（嫗は泣いている。沈痛な空間。翁、たまらず）

翁　　人じゃ！　家来は無論、人じゃ！
女　　おじいさん？
翁　　犬飼さん、猿山さん、キジ森さんじゃ！
女　　おじいさんそれは無理があるかと
嫗　　・・・そうか。そうじゃな！　犬と猿とキジが家来なぞ、ありえんことじゃ！
翁　　ありえんわ！　あはははは
嫗　　そうじゃな。で、続きはなんと？
女　　「我らは終に鬼ヶ島を目指さんとす」
嫗　　おお、４人もいれば安心じゃな。
翁　　安心じゃねー！
　　あはははは、汗出てきた。
女　　「この後、我らの勇姿、絵に描きて送らん。」
翁　　おうまずいのう！
女　　まずいですね　！
嫗　　なぜじゃ。
男　　おー、じいさんばあさん、桃太郎から絵が届いているぞー。（絵を持ってくる）

（熊野桃太郎神社の絵。犬が「日本一」と書かれたノボリを持っている。猿は刀持ちをしている。キジは飛んでいる。）

翁　　おわーーー！！！（嫗の目を隠す）
嫗　　何をする！
女　　（男に駆け寄り）なんとタイミングが悪いのじゃお前は
男　　おう、これは、桃太郎か。ん？　この犬は何じゃ。
翁　　犬飼さんじゃ！
男　　猿は？
女　　猿山さんです！
男　　んんん？　キジは？
翁女　　キジ森さんです！
男　　いやでも・・・このキジ森さん？　空を飛んでいるぞ。人なの？
嫗　　人なわけあるか！　ちょちょ、みせてくれ、邪魔じゃこのじじい！

（嫗は、翁の手を振りほどき、絵を見る。）

嫗　　動物じゃ・・・やはり動物じゃ・・・
女　　これは鳥ではありません。人間です！

嫗　　７０年生きてきたが、こんな人間見たことないわ！
男　　そうじゃのう、まあこれは、明らかにキジとしか・・・
嫗　　あああああ・・・
女　　鳥人間です。これは、私の仲間の、鳥人間なのです。

（女は突然、羽ばたきを始める。）

女　　ばさばさばさあーーー、ばさばさばさあーーー
嫗　　何をしておるのじゃ！！！
女　　私も鳥人間なのです！　ほら！　ばさばさばさあーーー
　　（男に）ほら、あなたも鳥人間でしょ？
男　　え？
女　　鳥人間は、いつも身近なところにいるものなのです。（男に）ほら！
男　　ええ？　何？

（男は、絵を舞台真ん中に置き、女に合わせて羽ばたきを始める。）

男　　ばさばさばさあーーー・・・・けっこうきついなこれ

（女と男はひとしきりやる。疲れる。）

翁　　もうよい・・・
女　　だめです！　ばさばさばさーーー（息切れ）
男　　ばさばさばさーーー（息切れ）
翁　　おばあさん、あれ、鳥人間じゃって
嫗　　そんな人間おらんわ
翁　　じゃよね～。もう良い、無駄である。
女　　ちょ
翁　　・・・嫗よ、確かに桃太郎は、普通の人ではなく、この犬と、猿と、キジを家来にした。
　　だがな、その何が悪い？
嫗　　このままでは死んでしまいます！
翁　　我らの桃太郎が死ぬものか！　なぜそう思うのじゃ！
嫗　　（絵を指さしながら）
　　だってこれ（犬）と、これ（猿）と、これ（キジ）と、これ（桃太郎）ですよ！？
翁　　ああ・・・まあ、うん。そうじゃの
女　　翁、そこは否定するところです！！！
嫗　　桃から生まれたからじゃ・・・。
翁　　そんなことはない！
嫗　　桃から生まれたからこのような畜生の家来しかできんのじゃ・・・
翁　　ばかもん！！！

桃太郎は、強く気高き、わしらの子じゃ！
嫗　桃から生まれてでもですか！！！
翁　桃から生まれてもじゃ！！！
・・・生まれははっきり言って謎としか言えん！　そもそもアヤツは人間なのか！？　植物なのか？　さっぱりわからん！
女　翁？？？
翁　さらにじゃ、桃が流れてきた時に「どんぶらこっこ」という音がするではないか！
お前らこんな音聞いたことあるか！？　わしはないわ！　アヤツは一体何者なんじゃ！！
女　翁そこまで言わなくても
翁　されども強き、わしらの子じゃ！
嫗　でも・・・それはそうですが・・・
翁　（男に）なんか文句あるか！
男　いや俺はないけど
嫗　生きて・・・帰ってきますか
翁　帰ってくるわい
・・・(女と男に）すまなんだ、今日は帰ってくれないか。
男　俺、完全にかやの外なんだけど・・・
女　良いのです。ほら。

（男と女が出て行く。暗転。音楽がかかる。明転。女が便りを読んでいる）

女　「嫗、病に臥せりと聞きし。今すぐ村に帰りたれども、明日鬼ヶ島に渡り、鬼の首を討ち取らん。しかれども、予は死ぬかもしれぬ。家来がちょっとあれなので・・・」
翁　おい
女　「もし、無事に帰ったら、予は、おつるに婚儀を申し込む所存なり」

（顔を見合わせる。死亡フラグを感じる）

嫗　もう死の予兆が出ておるではないか！
女　「翁、嫗、今まで慈しみ育てたもうたこと、真にありがたきこと。出陣の前に嫗のキビの団子食いたし。ああ食いたし。」
嫗　鬼退治なんかいいのじゃ。そんなもん、どうでもいいのじゃ。
帰って来い、桃太郎・・・。
翁　嫗よ、キビ団子をたんと作ってくれ。たんとじゃ。
嫗　・・・はい（よろよろと立ち上がる)。
翁　死ぬな、桃太郎・・・それだけじゃ・・・それでだけいいのじゃ・・・

（外から、扉を叩く音がする。皆、そちらを向く。）

終わり